経済·金融 フラッシュ

ブラジル GDP(2020 年 7-9 月期) 一前期比 7.7%と反発も、不透明感は強い

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

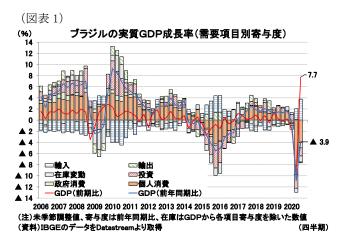
TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 7-9 月期は前期比 7.7%

12月3日、ブラジル地理統計院(IBGE)は国内総生産(GDP)を公表し、結果は以下の通 りとなった。

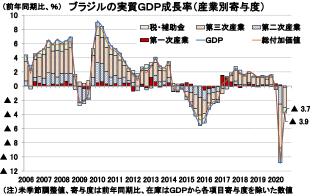
【実質GDP成長率 (2020年7-9月期)】

- ・<u>前年同期比伸び率(未季節調整値)は▲3.9%</u>、市場予想¹(同▲3.5%)より下振れ、前期 (▲10.9%) からはマイナス幅を縮小した(図表1・2)
- ・前期比伸び率(季節調整値)は7.7%、予想(同8.7%)より下振れ、前期(同▲9.6%)か らは反発した。



(図表 2)

(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得



(四半期)

2. 結果の詳細:サービス産業の回復は弱く、先行きの不透明感は依然として強い

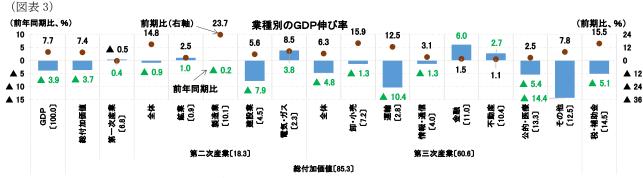
7-9 月期の実質GDP伸び率は前期比7.7% (季節調整値、年率換算34.6%) と4-6 月期の急減 (前期比▲9.6%) から反発した。需要項目別には、個人消費が 7.6% (前期:▲11.3%)、政府消 費が 3.5% (前期:▲7.7%)、投資 11.0% (前期:▲16.5%)、輸出が▲2.1% (前期:1.6%)、輸 入が▲9.6% (前期:▲12.4%) となった。輸出入を除いた主要項目はいずれも 4-6 月期の減少か は反発している。ただし、反発力は弱く前年同期比(未季節調整値)を見ると、個人消費▲6.0%、 投資▲7.8%、政府消費▲5.2%といずれも5%以上のマイナス圏にある。輸出入では輸出が▲1.1%、

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

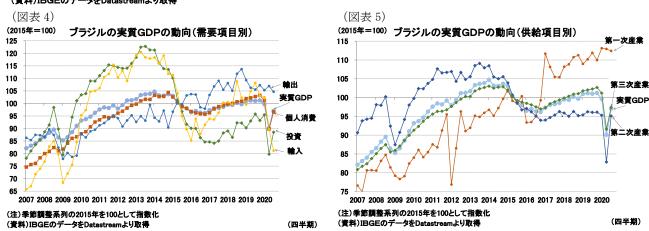
輸入▲25.0%であり、消費・投資・輸入からは内需の弱さがうかがえる。

次に産業分類別に実質GDPの伸び率を見ると、10-12月期は前期比では多くのセクターで反発 している(図表3)。大分類では「第二次産業」で前期比14.8%と大きく反発、前年同期比でも▲ 0.9 と小幅マイナスの状態まで改善している。製造業の反発が強かったことが主因と考えられる。 一方、「第三次産業」は前期比6.3%、前年同期比で▲4.8%と回復力は弱い。「その他(専門サービ ス、生活関連サービス、娯楽等)」(前年同期比▲14.4%)、「運輸」(同▲10.4%)といった人の移動 を伴うサービス産業が依然として低水準にある。

GDPの水準を時系列で見ると、需要別では、輸出が底堅く推移するなか個人消費や投資の反発 に伴いGDPが回復していることが分かる。ただし輸入は依然として金融危機前後の水準にとどま る(図表4)。産業別には第二次産業が大きく反発したものの、シェアの大きい第三次産業の戻りが 弱いことが、GDPの回復力の弱さにつながっていることが読み取れる(図表 5)。



(注)カッコ内は2019年のGDPに占める各産業の割合、グラフに記載している数値(データラベル)は黒が前期比、緑が前年同期比の数値 (資料)IBGEのデータをDatastreamより取得



ブラジルの足もとの経済状況を見ると、全体的な経済活動の動向を把握できる経済活動指数(Ⅰ BC-Br) は前年同期比でのマイナス幅を縮小させており、9月は前年同期比▲2.0%まで回復し ている。ただし、経済活動の回復ペースは鈍化しているほか、政府の主要支援策である現金給付²に ついても、ボルソナロ大統領は 12 月末で打ち切る姿勢を示しており、来年以降は支援策による景 気下支え効果は弱まると見られる。新型コロナウイルスの感染者数も夏のピークほどではないが、 足もとで拡大傾向にあり、ブラジル経済の先行きは依然として不透明感が強いと考えられる。

⁽お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提 供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。



² 低所得者向けの現金給付で月額。600 レアルは最低賃金の約 60%程度の水準となる。6500 万人以上が受け取ったとされている。12 月末まで延長されたが、9月からの給付金額は300レアルに半減された。